

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105029		
法人名	株式会社 プリマ		
事業所名	グループホーム プリマホーム		
所在地	岡山市北区辰巳33-108		
自己評価作成日	平成25年6月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成25年8月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境の中でご自分の家だと思っただけのように、ゆったりとした時間の中でお一人おひとりの自尊心を尊重し、ぬくもりのあるケアを心掛けています。生き生きと日々を楽しく、入居者・職員・支えて下さる全ての方々の集う場が「プリマドンナのお家」です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者のその人らしい暮らしと、安心・信頼に向けた医療機関との連携・全職員のアセスメントによる個々の振り返りと向上心・連携に努め、家庭的で楽しい「わが家」を目指し日々支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年二回全職員で確認を行い、サービスの提供ができるように話し合い、目標を掲げて取り組んでいます	不定期に抜き打ちでテストを行い、ホーム長・管理者・職員が理念の共有に努め実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の行事へ参加させていただき交流できるようにしています	地域のイベントはなく、西っ子クラブの学童が歌を唄いに来てくれ、お土産を用意したりお礼の手紙を書いたり入居者みんなでたのしい交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で介護相談などの呼びかけをおこなったり、町内の行事に参加しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在進行中の課題やホーム内の様子を伝え、災害時の地域との連携など頂いた意見をサービス向上に活かしています	地域包括支援センターの職員・民生委員・町内会長他、訪問看護ステーションの看護師また、地域や管内の警察・新しく病院が計画されている関係者など多方面にわたる参加者で開催しており情報交換・報告等話し合いサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	その都度、電話やFAXで連絡を取るようになっています	書類上の事やサービスの取り組みについて積極的に伝え、アドバイスをもらうなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠はせず、また定期的に勉強会や日々のケアの見直しを行い意識を高めています	その人らしさを大切にされたケアと統一したケアに取り組み、全職員で身体拘束をしない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や定期的な勉強会で学ぶ機会をもつようにし、日々のケアの仕方について話し合うようにし意識を高めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会で学ぶ機会をもち、制度について理解できるようにしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を心掛け、理解・納得をしていただけるよう努めています。また、同意書が必要な場合はその都度書面作成同意を得ています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けたり、面会時には積極的にコミュニケーションをとり要望などを反映できるよう、職員で話し合い対応しています	入居者・家族から、居室での暮らし方や退院後の機能回復など意見や要望を聞き、代表者・管理者・職員・医師など関係者と相談しながら運営の反映に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見はできる限り実践できるようアドバイスしています。会議や個人面談・日々の業務の際に意見を聞き、反映できるようにしています	日頃から感じている事・困っている事など要望や意見を聞き、代表者・管理者・職員とコミュニケーションを取りながら現状の把握に努め運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や現場に出て現況の把握に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修への参加を促し、介護技術向上につなげています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の事例検討や、研修会へ参加したり、知り合った方々と連絡を取り情報交換をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時や入居時にしっかりコミュニケーションをとりホームの空間で落ち着いて、安心していただけるように支援しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせがあれば傾聴し、応対し安心していただけるよう努めています。来訪時や面談時等に要望や不安を聞き信頼関係を築けるよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・家族やケアマネジャーからの情報を基にカンファレンス会議を行い必要なサービスの提供ができるようにしています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる事を見つけて家事など一緒に取り組むことで支え合える関係が築けるように支援しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望やホーム側からの相談する機会をつくり協力しあえるよう努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族へ手紙を書いたり、昔なじみの美容院へ行ったり、夫のいる施設へ面会に行くなどしています	家族と協力しながら馴染みの人や場との交流に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話やレクリエーションには、必ずスタッフも間に入り、楽しくコミュニケーションがとれるよう支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員が電話や手紙などで現況を尋ねたり、機会を設け訪問に行くなどしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で利用者が発する言葉や表情などから希望や意向の把握に努め職員同士で情報交換をしています	家族からの情報と日々の支援の中から本人の思いや意向の把握に努め本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしの情報やご本人・家族から今までの生活等のお話を聞き把握できるように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや表情や行動などから把握するように努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または必要に応じてモニタリングやカンファレンスを開催しています。ご本人や家族の意向をうかがい、また全職員による評価と課題をまとめて話し合い現状に合った計画を作成しています。	入居者の現状と家族の要望・意見をもとに職員・関係者と話し合い、チームでつくる介護計画の実践に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、一日の出来事や話した内容や要望をその都度記入し、情報の共有やケアの見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や他のサービス事業所に相談し、必要なサービスが受けられるよう支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容やボランティアの方々に開催していただいたり、めがねクリーニング等を取り入れて日々の生活を楽しむことができるよう支援しています。また買い物では近くのスーパーや薬局を利用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する病院に往診・受診できるように家族の協力も得ながら支援しています。希望するかかりつけ医に受診できるよう家族と協力しながら支援しています。	かかりつけ医と専門医との連携が取えられておりホーム・家族とも連携して適切な医療受診が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で電話相談を受けて下さっています。また必要な時には、訪問看護師や医師に伝え助言をいただいで支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書を活用したり、また入院先や医療機関に訪問・連絡して情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホーム内でできる事を明確にし、家族や主治医を話し合い、随時意思確認をしています。また、職員は定期的に研修も行っています。	本人・家族の想いを大切にしながら取り組んでおり半数以上の職員が体験している。	ニーズの高くなる支援です。これからもさまざまな場面に遭遇すると思います。関係者と話し合いながら方針の統一と共有に努められる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成をし、事例検討や研修会を開いて対応できるようにしています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、全職員が対応できるように努めています。また、訓練時に町内会長へ連絡も行っています。	消防署の協力も得ながら避難対策・夜間訓練に取り組んでいる。	火災時の初期消火や避難訓練のほか、地震や水害などの天災害に備えた防災、避難訓練にも取り組まれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない声掛けや対応に努めています。また、対応や声掛けについて定期的に話し合っています。	一人ひとりのプライバシーの確保に努め、全職員が日々アセスメントチェック表を記入することで気付きや取り組みを確認し、その人らしい暮らしの支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた声掛けを行い、ご本人が選択できる場面づくりをしています。また、問いかけに対して待つように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた一日を送れるように支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は自分で選んでいただいたり、外出する際には職員と一緒に身だしなみを整えるようにしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の食材を取り入れたり、食べたいものを聞きながらメニューを決めたりして一緒に食事をとっています。準備や片づけは分担しながら行っています。	それぞれの好みや体質を把握して献立を決めている。入居者の得意な事や、やる気など様子を見ながら準備や片づけなど一緒に行い食事が楽しみなものになる様心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の体調や病状に合わせた食事形態で提供・介助しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、口腔ケアの声掛けを行い、介助の必要な方はできない部分を介助しています。うがいができない方はガーゼ等でケアをしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自ら訴えることが難しい方は、行動や様子やしぐさなどをよく観察し判断してトイレ誘導をしています。トイレ誘導表を使用しながら、随時声掛けも行っていきます。	失禁していてもトイレでの排泄を促し誘導している。男性の入居者が多くプライバシーに配慮しながら力量に応じた自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ファイバー・食物繊維や乳酸菌の含まれている飲み物を活用したり、十分な水分補給と運動も取り入れ工夫しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にはご本人に説明し、一人ひとりの望む時間にできる限り入浴できるよう、また無理に行わないよう心掛けています	一人ひとりの要望に合わせた入浴支援に努め、入居者と職員が一對一になるので心の通った接遇を心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の様子を見て、疲れたり眠そうなときには、休んで頂くよう声掛けしています。また、夜間は照明や物音に気を付けています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回、きちんと内服できているか確認を行っています。全職員が把握できるよう声を掛けあっています。内服による変化をしっかりと様子観察し、主治医に報告しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる事を把握し役割分担した仕事などをしたり、レクリエーションで楽しく過ごしていただけるように支援しています。入所前の趣味も継続できるように努めています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外出などコミュニケーションの中から希望を聞いて、家族とも相談しながら出かけられるよう支援しています。外出前には事前調査も行っていきます。	ベランダから広い庭にいつでも出入りでき花植えや野菜作り、買い物や外食など日常的な外出と、四季折々の家族との外出支援にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金の管理所持をすることは難しいが、外出の際に希望するものや飲食ができるように支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族と相談し、ご本人の希望時に電話などのやり取りができるよう支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	動線には妨げになるような物は置かないような空間づくりをしています。分かりやすい目印や標示をつけたり壁を利用して四季が感じられるような装飾や写真の掲示をしています	共用空間は広い庭に面しており開放的で四季が感じられる造りになっている。部屋の入り口やトイレなど混乱を防ぐため目印を標示してあり自立した生活への支援の一助にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時以外は他のテーブルに自由に移動したり、ソファ・デッキやカウンターなどを利用し穏やかに過ごせるようにしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持って来られたり、ご本人が過ごしやすいような部屋づくりを相談しながら行っています	本人が居心地よく過ごせる様また、家族の意向を大切にした居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせ、必要な時は補助具を増やすなどして安全で自立した生活が送れるように心がけています		